

福岡演習林の学術参考保護林

農学部附属演習林福岡演習林 壁村勇二

1. はじめに

福岡演習林は1922年11月に設置されて以降、2014年現在で1haの天然生林が環境省生物多様性センターの重要生態系監視地域モニタリング推進事業（以下、モニタリングサイト1000）の準コアサイトとして2006年より調査されているのみで、継続的な調査の実施とデータの蓄積が行われていない。そこで本報では、福岡演習林の過去の植生調査データと生育種の希少性に基づいて代表的な天然生林を学術参考保護林として設定し、その林分構造を明らかにすることで長期動態研究の基盤とすることを目的とした。

2. 調査方法

2013年から2014年にかけて現地踏査を行い、5カ所の学術参考保護林を選定した。各学術参考保護林の名称は、それぞれつる性木本植物、モミ・コバノミツバツツジ、ネズミサシ、リュウキュウマメガキ、シイ・カシ類とした。各学術参考保護林において、2013年から2014年にかけて久保田ら（2008）に準じて20m×20mの固定プロットを設置した。プロットの計測には高精度モバイルGPSを用いた。モニタリングサイト1000（自然環境研究センター2010）の森林調査方法に準拠して地上高1.3mでの周囲長が15cm以上ある個体を対象に、スチールメジャーを用いてmm単位で周囲長を測定し、プロット内での個体位置の計測を行った。なお、つる性木本植物学術参考保護林では地上高1.3mの周囲長が15cm未満の個体についても、デジタルノギスにより幹の1.3m高での直径を計測した。モミ・コバノミツバツツジ学術参考保護林においては全コバノミツバツツジ個体の地上高1.3mでの周囲長が15cm未満であり、久保田ら（2010）に準じてコバノミツバツツジの樹高と樹冠面積を計測した。

3. 結果

つる性木本植物プロットでは19種が認められ、胸高断面積合計が大きい樹種は順にアラカシ、ヤブツバキ、ヒサカキであった。つる性木本植物ではサカキカズラ、ヤマフジ、ヤマイバラの順であった。モミ・コバノミツバツツジプロットでは14種が認められ、胸高断面積合計が大きい樹種は順にモミ、タブノキ、コナラであった。またコバノミツバツツジは14個体が確認された。ネズミサシプロットでは10種が認められ、胸高断面積合計が大きい樹種は順にアカマツ、ネズミサシ、コナラであった。リュウキュウマメガキプロットでは17種が認められ、胸高断面積合計が大きい樹種は順にアラカシ、コナラ、シロダモであった。シイ・カシ類プロットでは16種が認められ、胸高断面積合計が大きい樹種は順にツブラジイ、ウラジログシ、コナラであった。また、福岡県レッドデータブック2011（福岡県環境部自然環境課2011）ではモミ群落が将来的な破壊の危惧が大きいカテゴリーⅢに分類されており、当林分はその中でも比較的低標高にある。ネズミサシは準絶滅危惧に指定されている。リュウキュウマメガキは絶滅危惧ⅠA類に指定されている。ツブラジイ群落、ウラジログシ群落、アカガシ群落は将来的な破壊の危惧が大きいカテゴリーⅢに分類されている。

引用文献

- 久保田勝義・井上幸子・壁村勇二・鍛冶清弘・内海泰弘・榎木 勉・井上 晋（2008）宮崎演習林の学術参考保護林と見本林（Ⅰ）. 九大演報 89: 137-147
- 環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業（2010）モニタリングサイト1000 森林・草原調査コアサイト設定・毎木調査マニュアル. 環境省自然環境局生物多様性センター，自然環境研究センター，pp.14
- 久保田勝義・壁村勇二・鍛冶清弘・椎葉康喜・内海泰弘・智和正明・榎木勉（2010）宮崎演習林の学術参考保護林と見本林（Ⅲ）. 九州大学農学部演習林報告 91: 24-28
- 福岡県環境部自然環境課（2011）福岡県の希少野生生物. 福岡県レッドデータブック2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類-. 福岡県総務部県民情報広報課，福岡